

社会福祉法人栃木県共同募金会鹿沼市支会

会長 宇賀神 伴吉 様

記入例

団体名 子育てサロン「あかいはね」
 代表者名 赤羽根 さつき
 住所 鹿沼市〇町12-34
 連絡先 010-2345-6789



赤い羽根公募助成事業 報告書

事業対象時期（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

決定の通りに助成金を使用したことを、以下のとおり報告します。

1. 申請した事業の実施内容

(1) 申請をした事業名（助成金を使って実施した事業や活動の名称）
親子で防災体験事業～災害時の食を考える～
(2) 実施した時期（いつ行ったか、開催期間や開催日について）
①令和7年8月7日（木）10：00～13：30 ②令和7年9月18日（木）10：00～13：30
(3) 実施した回数・数量（事業の開催回数、啓発物などは作成した部数）
事業開催：2回 事業の案内チラシ：100部
(4) 実施した場所（どこの、どんな場所で）
鹿沼公民館 調理室
(5) 対象となった人・範囲（どういう人が何人）
①小学生の親子 14組33名（保護者14名、子ども19名） ②未就学児の親子 15組29名（保護者15名、子ども14名） 合計62名
(6) 事業の具体的な実施内容（どんな事業や活動を行ったのか）
<p>栄養士で防災士の資格も持つ赤井 羽根子さんを講師とし、能登半島地震を例として災害や避難所の様子について写真を見せていただきながらお話をいただき、小さい子を持つ親だからこその課題や心配な点等について親子で話し合った後にグループで共有することもできた。</p> <p>その後、パッキングを体験・試食した。食生活改善委員の手助けも受けながら参加対象年齢に合わせたメニューを体験（1回目：ツナ缶カレー・ご飯・牛乳寒天、2回目：ケチャップライス（ツナ缶・コーン）・みかんゼリー）し、より身近な自分事として活用や備えを考える事につながった。また、災害時に役立つ新聞紙工作も体験し、「防災」を親子で楽しく学ぶことができた。</p>

写真データ送信先

kashakyou@kanuma-shakyo.or.jp

2. 実施した事業による成果

(1) 申請した事業を行ったことによって得られた成果

① 事業を行ったことによる具体的な効果

(対象者や地域にどのような良い変化を生み出すことが出来たのか)

実際の被災の様子を見たり聞いたりしてイメージがついたことで、参加者がより自分事として捉える事ができるようになった。有事の子どもの生活や課題にも触れたことで、「生活や備えを知ったことで不安が少し和らいだ」との感想もあった。また、「ママ友にも教えたい」「家族にも話したい」「災害時に慌てないように日頃からローリングストックやパッキングをやりたい」等の意見もあり、参加者の満足度は高かった。参加者の意識と知識が向上したことに加え、回りの人へも広めていただく事や食改さんにも協力いただいた事で地域としての防災力向上の一助となった。

② 今回の事業に関連した今後の展望について

参加者の満足度が高く、子育て中のママたちの「防災」や「食事」に対する不安が大きいことがわかった。今回、定員の都合でご参加いただけない方もいたため、同様の事業を定期的に開催していきたい。また、定期開催しているサロン事業で参加者から意見を募りながら、「食」のみならず「健康」「余暇」「ママの心のケア」等、子育て中のママに有意義なテーマの講座も企画していければと思う。同時に、ふだんのサロンに参加いただいている方も含め、多くの子育て中の方たちに会ってもらい、居場所として気軽に参加していただけるよう周知広報にも力を入れていきたい。

(2) 共同募金の助成を受けて事業を実施できたことを受け、募金いただいた方へのメッセージ (ありがとうメッセージ)

- ・どんな事業に取り組み、どんな成果があったのか・今後の地域とのかかわりや展望
- ・寄附者への感謝の言葉・参加者の声 など

子育てサロン「あかいはね」では、子育て中のママたちを応援するためサロン活動を中心に活動しています。その中で、近年、災害が頻発していることで「防災」や「避難」を自分事として捉えている方も増えていることがわかりました。特に、小さな子どもを抱える方ほど、不安が大きいこともわかり、今回は災害時の食について親子で考える機会を持ちたいと思い企画しました。

小学生親子、未就学児親子それぞれを対象に各回15組を定員として1度ずつ開催し、合計で62名の参加がありました。災害の様子や避難所の様子を見せていただきながら、小さい子を持つ親だからこその課題や心配な点等について親子やグループで話し合い、個々の状況に応じた「防災」を考えることができました。その後、パッキングを体験・試食し、有事であってもできるだけ日常に近い生活を継続する大切さとその方法について学び、「子どものことが一番不安であったが、生活や備えを知ったことで不安が和らいだ」「ママ友にも教えたい」「災害時に慌てないように、日頃から備えを考えたい」「子どもと一緒に出来てよかった」などの感想をいただきました。今後も普段の活動の中で、子育てママたちの声に耳を傾け、ニーズを拾いながら事業も企画していきたいと思っております。ありがとうございました。

3. 実施事業における総予算と助成金の使い途の報告

【A】 助成金の決定額	100,000 円 (千円単位で記入)
【C】 実施事業の総額 助成金決定額【A】 + 自己資金【B】 の合計金額	107,055 円

助成金を活用して実施した事業の支出内訳

区分	費目	支出金額	積算内訳 (単価×数量など詳細に記載する)	証憑 番号
助成金支出	諸謝金	20,000	講師：赤井 羽根子 氏へ@10,000円×2日	①
	賃借料	5,000	鹿沼公民館 調理室@500円×5時間×2日	②
	消耗品費 (一部)	1,652	耐熱ビニール袋@398円×3箱、消毒液@548円×1個	③
	食材費	39,927	1回目：24,364円 2回目：15,563円	④⑤
	参加者お土産・お茶代 (一部)	31,079	非常食クッキー缶@547円×50個/飲み物@2,160円×2箱・@2,352円×2箱 36,374円のうち31,079円を助成金より支出	⑥⑦
	印刷費	2,342	事業周知用チラシ @23.42円×100枚	⑨
	合計【A】	100,000	※100,000円以内かつ千円単位	
自己資金支出	消耗品費 (一部)	1,760	布巾@110円×10枚、ネームペン@110円×6本	⑧
	参加者お土産・お茶代 (一部)	5,295	非常食クッキー缶@547円×50個/飲み物@2,160円×2箱・@2,352円×2箱 36,374円のうち5,295円を自己資金より支出	⑥⑦
	合計【B】	7,055		
実施事業総額【C】		107,055	※【A】 + 【B】 の合計金額	

同じ費目で、助成金と自己資金の両方から支出する場合は、合計額のうちそれぞれで支出する金額をわかるように記入してください

【支出内訳の書き方について】

※費目は申請書に記載した費目ごとに記入。

※領収書の写しごとに番号を付し、証憑番号の欄には、該当する領収書の番号を全て記入。

1枚の領収書が複数の費目を含む場合には、領収書の写しに費目分類がわかるように記載。

4. 提出書類の確認 (報告書類をすべて確認しました※□にチェック)

✓	報告書 (実施事業の内容と成果、積算根拠を明確に記入しました)
✓	領収書の写し (領収書ごとに番号を付し、証憑番号を全て記しました)
✓	写真データ ※ホームページ等で公開可能なもの
✓	赤い羽根共同募金の助成を受けて実施した活動であることを示した資料 (広報誌・新聞記事など。広報周知した物)

写真データ送信先

kashakyou@kanuma-shakyo.or.jp